

第5回庄原市行政評価委員会 会議録（摘録）

1. 開催日時 令和元年8月29日（木）
開 会：15時00分
閉 会：16時55分
2. 開催場所 庄原市役所 5階 第2委員会室
3. 出席委員 石川芳秀 委員（委員長） ・ 清水孝清 委員（副委員長）
若林隆志 委員 ・ 檀上理恵 委員 ・ 箕越美紀子 委員
4. 欠席委員 名越圭佑 委員 ・ 水戸美代子 委員
5. 出席職員

総務部	総務課長		岡本貢
総務部	総務課	総務法制係長	藤野鉄也
総務部	財政課長		中原博明
総務部	財政課	理財係長	宮本雅幸
生活福祉部	高齢者福祉課長		毛利久子
生活福祉部	高齢者福祉課	介護保険係長	関里美
企画振興部	いちばんづくり課長		山根啓荘
企画振興部	観光振興課長		定光浩二
企画振興部	観光振興課	観光振興係長	糸原秀晴
総務部	行政管理課長		加藤武徳
総務部	行政管理課	行政管理係長	下森一克
総務部	行政管理課	行政管理係	小林裕美
6. 傍聴者 なし
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

第5回庄原市行政評価委員会次第

令和元年8月29日(木) 15:00から
庄原市役所 5階第2委員会室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 評価意見の検討

(1) 公用車管理事業 資料1

(2) 庄原市ふるさと応援寄附金 資料2

4. 評価対象事業の説明

(1) 在宅高齢者介護用品支給事業 資料3

(2) 比婆いざなみ街道マラニック大会実行委員会負担金事業 資料4

5. 総括意見の集約

(1) 高齢者世帯雪下ろし支援事業補助金 資料5

(2) グローバル・ドローンイノベーション協議会負担金 資料6

(3) ふるさと応援団事業 資料7

6. その他

評価シート提出期限	令和元年9月10日(火)
次回評価委員会議	第6回行政評価委員会 ・令和元年10月2日(水) 13時30分～ ・5階第2委員会室

7. 閉 会

会議経過

1. 開会

2. 委員長あいさつ

お忙しい中、ご出席をいただきありがとうございます。本日は3時からということで、スムーズな進行を心がけてまいりますので、よろしくお願いいたします。

3. 評価意見の検討

(1) 公用車管理事業

－ 事務局より追加資料説明 －

委員 【①現行どおり】の意見

市行政の執行には効果的な事業であり、現行どおりが適切と思う。意見として、今後導入される公用車については、環境に配慮した車両の導入を検討されたい。また、近年のあおり運転等の事例も多く見受けられるので、ドライブレコーダーを計画的に設置して職員の安全確保に努めてほしい。

委員 【②現行どおり】の意見

広域な市域で、公共交通機関も少なく、公用車の利用は最も必要であることから、市職員の安全運転への意識の向上や公用車の安全管理に今後も務めていく必要がある。そのためには、平素から公用車の点検や洗車等も行い、導入年度においてはかなり古いものも見受けられることから計画性をもって早めの更新が必要と思われる。

委員 【③現行どおり】の意見

「無駄をなくす」という行政運営上基本的管理項目であるが故に、車両経費に関しては全ての職員が経費節減を腹に据えて運行を行っていると思う。作業効率と効果を背景に、今後も車両の配置運用を前向きに検討しながら管理して頂きたい。また、軽微な事故を含めて事故件数ゼロ（無事故・無違反）を目指して運転して頂きたいです。

委員 【④拡充】の意見

広大な面積を持つ庄原市では、公用車の管理は重要な事業だと考える。職員の人数に対して台数が削減されるのは良いが、事故防止や検証等の観点も踏まえ、全公用車にドライブレコーダーの設置を目指すべきと思い、拡充を選択した。

委員 【⑤現行どおり】の意見

市役所の事業を効率的に遂行する上では、現行の車両台数は必要との主管課意見ですが、その為には各車両の稼働状況を明らかにし、妥当性の根拠が必要と考えます。

又、資料5-4の「車両の導入・更新基準 15年以上又は15万キロ以上を基本とする」と定められていますが、近年の車両の省エネ化、追突防止機能等安全性の向上又、ドライブレコーダーの取り付け等、車両の高機能化が目覚しく進化しています。その中で15年の経過年数は、あまりにも時代に合っていないのではないのでしょうか。

このことを解決する手段として「購入」ではなく車両の「リース契約」に変更されることを提案します。

委員 【⑥現行どおり】の意見

必要なことが、必要に応じて行われていると考えます。今後も、市民のため、安全運転での業務遂行をお願いいたします。

委員 【⑦拡充】の意見

購入後15年を経過した（平成元年～14年度分）車両が22台もあり、早急に買い替えが必要。経過年数15年は長すぎ、各車両の走行距離を把握、年間キロ数が平等になるよう管理し、必要であれば本庁・支所間での車両のやり取りもありと思う。冬季使用を考慮して、駆動輪にも配慮を。また、最近の車事情に合った装備も検討してほしい。ドライブレコーダーだけでなく、標準装備になってきているバックモニターも必要。そして、職員教育の一環として、実際に公用車を使っての実技講習を実施、車両感覚を身に付けてもらうぐらいのことをしてほしい。

委員 時代のニーズに沿ったもの、ドライブレコーダーやバックモニター装備の必要性への意見。

また、環境への配慮等、付加価値を付けた車両は、今後、次々と思われる。費用対効果、リースか購入か等含め、節約方向で検討されたい。

いくら安価であっても、事故を起こしては意味が無い。運転事故ゼロを目指して努めていただきたい。

委員 ハイブリッド車の台数は。

事務局 普通車2台。

委員 25～30年という車両があるが、特殊車両か。

事務局 軽貨物車。

委員長 「現行どおり」とする。

(2) 庄原市ふるさと応援寄附金事業

－ 事務局より追加資料説明 －

委員 【①現行どおり】の意見

ふるさと納税は、応援したい自治体へ寄附する制度であり、有効な制度であると思う。本来の趣旨から過度な返礼品は控えるようにしてほしい。

返礼品目当ての寄附はできるだけ控えたほうがよいと考える。

委員 【②現行どおり】の意見

本市への寄附額「平成29年度」は県内の市では少なく、低位にあることから、他の事業「ふるさと応援団事業」等を活用して、幅広く本事業のPRに努める必要がある。他の事業を絡めて、機会あるごとに庄原市との関係人口を増やすPRを進め、ふるさと納税につなげていく必要がある。返礼品については、充実していく必要があるが、物品だけではなく、市内での宿泊や体験施設の利用等幅広いメニューとしたらどうか。

委員 【③現行どおり】の意見

寄附人数も年度毎に増加しており、効果のある事業だと思う。市外県外者が多い点を重視し庄原市独自の特色あるPR方法としくみを考案し全国認知度を高めて頂きたい。

現在のファンを維持しながら、これにとどまらず、良い方向に展開して欲しい。

委員 【④拡充】の意見

着実に寄附額は伸びており、ポータルサイトの導入等で利便性も向上している。庄原市の魅力をPR出来る事業である事から拡充すべきだと思う。ふるさと応援寄附金の使途として指定できる事業に、「災害復旧」または「災害対策」を加えてみてはどうかと感じた。

委員 【⑤現行どおり】の意見

ふるさとを応援したい想いの方が、ふるさとに寄附という形で手軽に貢献する手段があることは、良いことだと思います。このような施策は、一度に寄附者が急激に増加することを望むのではなく、息の長い取り組みとして、地道に寄附者、寄附金額を増やす方が良いのではないのでしょうか。

委員 【⑥現行どおり】の意見

国による「ふるさと納税」の仕組み自体、手放しでは賛成できかねる（税収の不足を寄附で補うとは…税（特に国税）の用途をもっと精査するべきだ）と思っているが、制度がスタートし、他の市町村も導入している中で、「うちは導入しません」というのは難しいのだろう。返礼品に市内産品を使うなど、庄原市として頑張っているし、生産者を応援する形になっているのは良いと思う。現行通り、地道に取り組んでいただきたい。

国の制度については、別問題と認識している。

委員 【⑦現行どおり】の意見

納税の環境を改善されたことで、経過観察が必要。ポータルサイトを拝見したが、事業内容について漠然としているので、使用目的など詳しく載せてほしい。また「--年度の使い道実績報告」の記載欄があるが、空白になっている。サイトでの決まりでなければ、昨年度の使い道が分かっているもの（予定のものも含む）の入力を早急に望む。

事務局 （⑦の意見に対し）委託業者に確認し、早急に対応することとした。

—総括意見—

委員長 「現行どおり」とする。

4. 評価対象事業の説明

(1) 在宅高齢者介護用品支給事業

— 事務局より資料説明 —

・評価シート1頁の「事業費-扶助費」に慰労金に係る金額を含めていたため訂正。

委員 介護保険制度そのものが年々複雑になっており、理解が難しい事業である。
令和3年度から、国の補助外となり、単市で900万円を負担して事業を実施するのは難しいため縮小ということか。

事務局 このまま継続は難しいと考える。

委員 自宅介護は、介護する方もされる方も大変というのは誰もが理解するところである。

要介護4・5になれば、ほとんど動けない。いちばんおむつが必要なのは要介護3と思う。何とか残していただきたい。

在宅介護を推奨しながら、こういった制度を補助対象から外すという国の方向性に矛盾を感じる。

今後の制度について、まだ不透明な部分があるか伺う。

事務局 次の見直し、第8期計画の内容が判明するのが、来年の今頃で、次年度予算編成に間に合うかどうかの時期になると思われる。

激変緩和措置により3年延長しているため、国からすれば「対象外になることは分かっていたこと」となる。

庄原市の規模でもこの金額になるので、市長会等から延長の意見が出されるとは考えている。

今の公表内容では、打ち切られる可能性が高い。

委員 3,000円/枚の根拠は。市場の値段×月使用枚数か。

(自身の)職業柄、実感として違和感がある。利用率70%とは、結局、入院中は使えないため、1年を通じて利用していない方もいるからだと思う。

事務局 多くの市町で上限額が7万5千円ということから、制度が始まったときの基準額と想定される。在宅介護者の経済的負担だけでなく、精神的慰労の面もあるため、入院されている期間使えないというのは、ご理解いただきたい。病状等を含めた個別事情による金額の妥当性の判断は難しい。

本市の助成金額については、県内ではいちばん高いところにある。

委員 国の根拠・意図とは。

事務局 財源である介護保険財政事情が非常に厳しい中で、「適正な支給」になっているか等、管理が非常に難しい課題を抱えている事情や、当該事業が、任意事業メニューの中に元々入っていたため、「市町村が市民のためにやりたいといえはできる」という扱いになっている。

また、65歳以上の1号保険料の割合を3年ごとに1%ずつ上げ、かつ給付を抑える等、財源確保に苦慮している状況がある中、任意事業は市町村が独自にしてはどうか(一般財源化で実施)という方向性になってきている。

これ以外にも様々な事業において、補助金で始めたものが打ち切られ、市町村一般財源で実施することとなったものもある。

委員 任意事業の財源として、第1号保険料、約200万円の支出が見られる。これは一般財源でなく介護保険料からの支出と思うが、補助対象外となったらどうなるのか。

事務局 保険料で充てることができる費用は決められており、一般会計で行う事業に保険料は充てられない。

委員 新たな制度ができないと支払うことはできないということか。

事務局 そのとおり。

保険料に余裕があれば、そこからの支出を考えている自治体もあると伺ってい

る。

現在、庄原市は県内で一番高い保険料となっており、この保険料を上げてまで当該事業を維持するかという検討が必要となっている。

保険料を納めている方の、5分の4から3分の2の方は、介護保険制度を利用していない状況であり、市の独自事業のために保険料の増額は難しいと考える。

あくまでも国の制度に則った事業に対する保険料負担が適当と考える。

委員 元々、介護保険制度ができたときに、長続きしないとされていた。

医療のように、レセプトによる支払等、目に見える制度とは異なっている。

委員 利用率 68.7%というのは、交付したが利用していない方が 32%いるということか。

委員 入院等で利用できない場合がある。毎月 6,000 円使っていても、入院期間は使えなくなる。

事務局 年度内であれば、使用制限はない。年間 25 枚分をまとめ買いされる方もいる。

委員 年度末にまとめ買いされる方はいる。

(2) 比婆いざなみ街道マラニック大会実行委員会負担金事業

－ 事務局より資料説明 －

委員 本事業の実行委員長を務めているが、遠慮なく忌憚りの無いご意見をいただきたい。

委員 今年 3 回目、まだ聞きなれないが、全国的、及び中国地方での状況は。

事務局 近場では、奥出雲町や呉市で実施。

庄原では 60km 位だが、近年、ウルトラマラソンの 100km 等、取り組んでいるところもある。近隣の状況資料があれば、提出する。

委員 アスファルト上を走る「マラソン」、芝生上を走る「クロカン」、マラソンとピクニックを掛け合わせた「マラニック」、山ばかり走る「トレイルラン」等、様々な種別の資料も提出を願う。なぜ、庄原市がマラニックを選定したのかということも気になると思う。

委員 スタッフ総数について。

事務局 約 220 名、走路員やエイド関係者等。

委員 自治振興区・自治会へスタッフ等のお願いをし、地元から提供されている物があると思うが、支出負担はどうか。

事務局 決算書の「エイド用食材」等、昨年度まで、地元負担は無かった。

地元説明の際、実際には、賄材料のみでなく、それ以外の負担があるとの話しを伺っている。

委員 みなさんにご協力いただかないと成り立たない事業である。

委員 コースについて、1 回目は東城・西城、2 回目が西城・比和・高野となっている。

毎年変わるのか。

事務局 1回目：東城・西城、クロカンパークをゴール
2回目：前回行ってなかった西側、熊野神社、比和運動総合公園、高野
3回目：昨年の災害を考慮し、本年度は比和・高野地域でコースを設定している。
比和地域は古民家がオープンするということもあり、他に何かPRできないかとい
うことで、三河内の棚田等もしっかり感じていただこうということで、本年度のコ
ースとなった。

来年度以降は、全体を見たコース設定が必要では、とのご意見をいただいている。

委員 補足すると、長期的なビジョンができていない。
今年3回目について、当面は街道沿いコースとし、東城から高野までとなった。
2、3年実施し、皆さんの意見を聞きながら、どういう方向性が良いかというこ
とが固まってくると考えている。

事務局 中には、口和・庄原・総領はどうするのかというご意見を聞くこともある。

委員 収入の部で、スポンサーを見つけることは検討されているのか。

事務局 第2回において、市外スポンサーの募集をしたが、応募がなかった。
第3回においても、ご意見はあったが、応募はしていない。基本的には、参加費
と市の負担金で賄う考えである。

市の負担金について、他の大会に比べて多いのではとご意見があり、1回目より
2回目は少なくし、本年度は概ね3分の1。

大塚製薬株式会社からは、お金でなく、スポーツ飲料等、物品提供で協賛いた
だいでいる。

委員 ノースポンサーで、人手のご協力がないと成り立たない事業。地元の皆さん等
には非常に感謝している。

5. 総括意見の集約

(1) 高齢者世帯雪下ろし支援事業補助金

総括意見	評価：現行どおり
<p>毎年のように高齢者による雪下ろし作業時の事故報道がある中、積雪地域である庄原市においては、必要な事業である。対象者の負担減、事業の認知度向上を図る等、補助事業対象者にとって、より利用しやすい制度となることを望む。</p> <p>同時に、次の点について市内で連携し、検討されたい。</p> <p>①安全管理上の課題等による「雪下ろし作業」受託者減少への対策。</p> <p>②依頼者・受託者双方の利便性向上のため、作業価格の基準設定。</p>	

(2) グローバル・ドローンイノベーション協議会負担金

総括意見	評価：現行どおり
------	----------

労働人口が減少する中、ドローンの活用は有益と考えられ、また、新しい事業に積極的に取り組む姿勢には賛同する。

しかしながら、協議会としての達成目標、意義が分かりにくい。とりあえず現行どおりとするが、具体的な戦略・目標に対する成果が示されていないため、費用対効果等、事業評価はできない。

協議会として、市民にわかりやすく、かつ具体的、効果的な事業展開を図りつつ、今後の負担金のあり方について検討されたい。

委員 協議会は継続していく予定か。

事務局 議論中であるが、ドローンの活用という意味では、民間の方へお任せした方がよいのではないかと意見があり、そこが基本になると思う。

協議会に負担金を出す出さないは別として、連携して取り組むことは大切と思う。

(3)ふるさと応援団事業

総括意見

評価：拡充

庄原を応援したいと感じている市外在住者の掘り起こしや関わりづくりによる交流人口の増加、及び更なる交流や展開に繋げていく意図により継続されており、庄原市にとって有益な事業である。

しかしながら、実施事業の方向性が明確でなく、取り組みが弱いと感じる。庄原市ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）等、他部署と横の連携を密にし、次の点等、内容を再考されたい。

①近年、手続きの簡便化を図られているが、更なる見直しを進められたい。

②応援団登録に対する魅力づくり。（支所エリアに1店舗以上の協賛店、住民の生き生きとした暮らしの情報発信等）

③達成目標・ターゲットの明確化。

6. その他

事務局 （次回会議までの資料提出及び、会議内容の説明）

7. 閉 会